Ⅵ　現職教育計画

令和５年度　七尾市立七尾東部中学校　学校研究概要

１　学校研究主題

主体的に学ぶ力の育成
～学びを実感できる単元デザインを通して～

（１）主題設定の理由

学校生活アンケートによると、授業のあいさつやベル準、私語なしなど、どの項目においても肯定的回答が大変多い。しかし、昨年度１学期末との比較を見てみると、挙手に挑戦する生徒や、学習した内容を次の学習につなげていると肯定的に回答する生徒が減少している。また、将来の夢や目標を持っている生徒や、家庭で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合も高くはない。そこから、本校生徒の現状として、授業を大切にしている生徒の割合が多いと言えるが、自分から進んで学んだり、表現したりする生徒、学んだ内容が次の学習や将来などにつながっていると感じている生徒の割合が少ないと言える。そういった課題に対し、主体的に学ぶ力の育成が必要であると考え、本主題を設定した。

（２）副題設定の理由

本校では主体的に学ぶ力を「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることができる力」と考える。この力をつける上で大切なことは、学びに「見通し」を持ち、学びを「つなぐ」とことである。学びを「見通し」、「つなぐ」ためには１時間の授業はもちろんのこと、単元デザインが大切である。学びを実感できる単元デザインが主体的に学ぶ力の育成につながるであろうという仮説のもとに、副題として設定した。

評価の観点	肯定的回答（%）Ａ＋Ｂ）				１学期末との比較
	１年	２年	３年	全体	
授業の最初と最後、しっかりとしたあいさつをした。	99%	99%	100%	99%	○1
ベル準ができた。	97%	99%	99%	98%	△１
挙手に挑戦した。	57%	57%	47%	53%	▲５
私語をしなかった。	82%	94%	92%	89%	△２
授業のノートやワークシートに、課題を書いていた。	97%	96%	97%	96%	△１
授業のノートやワークシートに、まとめを書いていた。	96%	96%	97%	96%	○１
授業の内容はわかった。	94%	94%	95%	94%	○１
学習した内容について分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	83%	90%	88%	87%	▲８
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	88%	88%	92%	89%	△１
授業では、自分の考えを話したり書いたりしている。	89%	87%	88%	88%	○1
授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したり組み立てを工夫したりするなどしている。	82%	88%	86%	85%	○４
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88%	88%	91%	89%	○４
自分の考えや意見を表現することは得意だ。	60%	75%	61%	65%	○４
将来の夢や目標を持っている。	64%	74%	76%	72%	○３
家で自分で計画を立てて勉強をしている。	64%	77%	75%	72%	△１

２　目指す生徒像

〇学校経営ビジョン・重点目標

七尾東部中ＧＩＦＴのＴ「自ら考え、判断し、行動する」

〇七尾東部の定義する学力

「主体的に課題に取り組み、習得した知識・技能を活用して協働的に課題を解決する力」

・　自己の行動目標を設定し、またそれを振り返って次につなげることのできる主体的な態度を持った生徒。

・　協働的、対話的な学習活動を通して、既習の知識・技能を活用して、自分の考えを広げたり深めたりできる生徒。

３　研究仮説

すべての教科において、教科の枠を越え、単元の中にアクティブラーニングの視点および適用題を位置づけた授業を計画的に実施すれば、生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

また、単元のゴールを生徒と教師が共通理解し、学び活用したり、振り返る時間を設定することで生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

４　研究の重点

「いしかわ学びの指針１２か条【１２か条プラス】」との関連

（１）活用力を高める授業づくり

２条：自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

（２）学力・学習を支える基盤づくり

８条：よりよい学習習慣・生活習慣の定着

（３）指導改善を進める体制づくり

１１条：現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

５　具体的な取組

（１）授業づくり

①MJ カードを利用することで、単元のゴールを教師と生徒が共通理解する。

②活用力向上スケジュールを作成し、計画的に適用題を単元に取り入れる。

③主体的に学ぶ工夫を４種類に分け、それらの工夫を取り入れた授業づくりを行う。

・学ぶことに興味関心をもつ工夫

・自己のキャリア形成の方向性と関連づける工夫

・見通しをもって粘り強く取り組む工夫

・自己の学習活動を振り返って次につなげる工夫

④その他

・課題・学び合う・まとめ・適用を位置づけた授業スタイルの確立。

・１人１台端末を学習指導、個別学習、協働学習の場面に活用し、授業改善を図る。

・授業づくりについて、学習集会や校内研修会を通じ、生徒と生徒、生徒と教師、教師と教師の間で共通理解を図る。

（２）基盤づくり

①七尾東部スタンダードを利用した授業規律の徹底

・七尾東部スタンダードコンクールは年５回（年度当初と行事後）のコンクール週間を設定する。また、結果は掲示し、学級での取り組みの成果を可視化する。

・学習集会で、授業規律の共通理解を図る。

②家庭学習の充実

・曜日毎に教科を定め（曜日課題）、家庭学習の調整と計画的な実施を行う。

・テストウィーク（定期テストの１０日前）期間に家庭学習時間調査を行い、結果を可視化・掲示し、意識の向上を図る。

③学習強化週間の設定

・強化週間を設定し、授業、課題を組み合わせて計画を立てる。

・教科部会が中心となり、学年の枠を越えて、学習状況を把握し、計画を立てる。

④ＩＣＴの活用

・１人１台端末と高速通信回線、電子黒板等、機器と環境の整備をし、活用を推進する。

⑤Tobu’s Talk による人間関係づくり

・月１回の短時間グループアプローチを取り入れることで、ソーシャルスキル育成と生徒間の人間関係づくりを図る。

（３）指導改善を進める体制づくり（「学力向上ロードマップ」参照）

・毎月１回（職員会議前）のチーム会議を設定し、共通理解と共通実践を図る。

・ＰＤＣＡの連動のため、チームリーダー会議（＝研究提案（ＰＡ）チーム会議）を定期的設定する。

・研究提案（ＰＡ）チームからの提案について、校内研修会や職員会議で共通理解を図る。

・研究推進（D）チームの中にモニタリング機能を設定し、確実な実践につなげる。

【総括チーム　　◎学校長・教頭・主幹教諭・研究主任】

方針決定と目標設定

実施状況のモニタリング

【集計分析チーム　◎進路指導主事・進路指導部員】

学力調査分析シート作成、現状把握、原因分析、課題の明確化

【研究提案チーム　◎研究主任・研究副主任・チームリーダー】

授業改善・学力向上プラン提案

校内研修・若プロ研修で教育情報を提供

【研究推進チーム　◎研究補佐・他全員】

授業チーム：〇研究補佐・生徒指導部員・教育相談部員

基盤チーム：〇基盤チームリーダー・生徒会部員・保健環境部員

学力向上プラン実施

校内研修（授業研究会）運営

取組の環境整備と実施状況のモニタリング

ＧＩＧＡスクール推進

【検証・研修支援チーム　◎主幹教諭・教務部員】

定期テストでの活用力育成問題分析による目標と結果の比較

アンケートによる共通実践の達成度と、学びの実感についての実態把握

学力向上プラン実施状況と成果の検証

検証計画（校内研修会・若プロ研修）

６　検証方法　（全体の検証については、目標値と現状の比較をもって行う。）

（１）学力調査・評価問題、定期テスト検証問題の正答率・誤答分析により達成度を確認する。

（２）学期ごとに質問紙調査を実施し、回答状況の推移を確認する。

（３）研究推進チームによる定期的なモニタリングにより、実施状況を確認する。

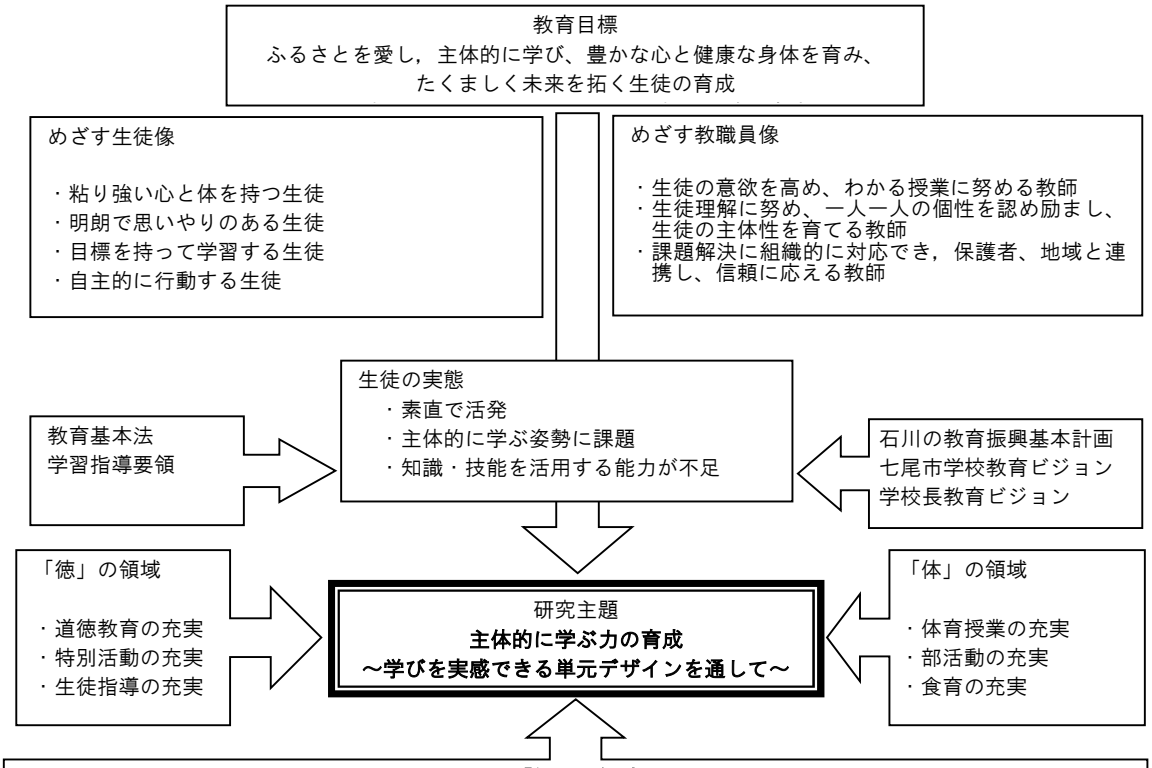
（４）学力調査・評価問題の研究と誤答分析を行う。

（５）週案、ロードマップとその別葉に実施状況を可視化し、実施状況を確認する。

７　学校研究組織図および研究計画（別紙「学力向上ロードマップ」参照）

８　学校研究全体構想図

七尾東部中学校　研究構想図



○研究仮説

　すべての教科において、教科の枠を越え、単元の中にアクティブラーニングの視点および適用題を位置づけた授業を計画的に実施すれば、生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

　また、単元のゴールを生徒と教師が共通理解し、学び活用したり、振り返る時間を設定することで生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

○PDCA 計画

・学力向上ロードマップに基づき，年間３回の研究の方向性を含めた見直しを行い，計画（Ｐ）・実行（Ｄ）・検証（Ｃ）・改善（Ａ）を行う。

・校内研修会を通じ，研究実践の成果を共有し，共通実践に役立てる。

○具体的な実践内容　研究の重点

（１）授業づくり

２条：自ら課題を発見し，主体的・協働的に課題を解決する力の育成

①MJ カードを利用することで、単元のゴールを教師と生徒が共通理解する。

②活用力向上スケジュールを作成し、計画的に適用題を単元に取り入れる。

③主体的に学ぶ工夫を４種類に分け、それらの工夫を取り入れた授業づくりを行う。

（２）基盤づくり

８条：よりよい学習習慣・生活習慣の定着

①七尾東部スタンダードを利用した授業規律の徹底

②家庭学習の充実

③学習強化週間の設定

④ICT の活用

⑤Tobu’s Talk による人間関係づくり

（３）指導改善を進める体制づくり

１１条：現状把握に基づき，取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

①計画的な要請訪問と校内研修会の実施

②学力向上ロードマップの活用